

・概要

本園では、体操専門講師の指導の下で、毎週1回体操教室を行っている。各学年（満3歳・年少・年中・年長）年間カリキュラム（資料参照）に沿って基本運動を体験し、子どもたちの「やってみたい」「できるようになりたい」「できた」という心を育てていくことをねらいとして取り組んできた。

・体操教室カリキュラム詳細

木曜日（満3歳児・年少・年中児） 金曜日（年長児）

流れ・内容	満3歳（20分）	年少（30分）	年中（30分）	年長（40分）
	準備運動 くま歩き	準備運動 座り方、模倣運動 リズムステップ （サイドステップ・音に合わせてリアクションステップ）	準備運動 クマ歩き ステップワーク （スキップ・Sステップ Bステップ）	準備運動
マット運動	でんぐり返し	両足ジャンプ・前転	前転	連続前転
跳び箱	跳び乗り降り	跳び乗り降り	開脚跳び乗り	開脚跳び
鉄棒運動 3月測定 （少・中・長）	ぶら下がり	跳びあがり 抱え込み 前回り	前回り～ 逆上がり	逆上がり
★縄運動	大縄跳び	握り方、Vジャンプ 前回り	前回り 前跳び	走り跳び 前跳び
ボール	カラーボール 的当て	ボールフィーリング 中あて	ボールフィーリング （ハンド・フット） キャッチボール 中あて ユニホック	キャッチボール ボールフィーリング （フット） ドッジボール サッカー

○運動会に向けての取り組み内容

種目	かけっこ（半周） サーキット （ジグザグ走・ケンパ [※] 跳び箱・マット）	かけっこ（1周） サーキット （ジグザグ走・ケンパ・跳び箱・マット 平均台）	徒競走（1周） スタート練習 パラバルーン （家・帽子・プリン・帽子）	リレー 組体操 （1人・3人・6人 ・全体種目）

○ゲーム

体操指導のおわりにゲームを行なうことが、子どもの励みとなっている。また、体操教室で行ったゲームなどを日常でも遊ぶようになり、ゲームを通して友だち同士のコミュニケーション力も育ってきている。

（主なゲーム：おおかみさん今何時？・ポケモンゲーム（中当て）・ドッジボールなど）

★「縄運動」の強化活動について

今年度の園内研究のテーマとしても、広い園庭で思いきり身体を動かしながら「元気な子」を育てることをねらいとし、体操教室で行なっている「縄運動」の強化を試みた。体操教室で基礎を学び、日常保育でも、積極的に取り組めた。

学年のレベルに合わせた色別の階級テープを、達成ごと縄に貼っていくことで、子どもの意欲が芽生え、友だち同士で刺激し合いながら練習したり、運動に消極的な子どもが進んで行なうようになった。「どれぐらい進んだか？」を、クラスごと毎月の測定（通称：どんぐりんテスト）で実施。

年度末（3月）には、個人測定（縄運動・鉄棒運動）を行ない、保護者に「個人測定表」を配布した。

《取り組みの様子》

① 体操教室（年中：4歳児）前回り・逆上がり



② 体操教室（年長：5歳児）跳び箱（開脚跳び）/鉄棒（逆上がり）



③ 園内研究「縄運動」（年少：3歳児）



④ 園内研究「縄運動」（年中：4歳児）



⑤ 園内研究「縄運動」(年長:5歳児)



⑥ 園内研究「どんぐりんテスト」の様子



⑦ どんぐりんテスト修了(メダル授与)

「どんぐりんテスト」では、少し緊張気味ですが、みんなに拍手をもらうことで、合格できなくても「次は、がんばろう!」という気持ちが育っていきました。



あいはらようちえん

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年2月8日

相原保善学園あいはら幼稚園

1. 本園の教育目標「素直で明るく元気な子」

- ・よく聞き、よく話す子 ・明るく挨拶、返事のできる子 ・なかよく元気に遊ぶ子
- ・自然とふれあう子 ・素直な子 ・よく食べる子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ①運動、スポーツに親しむ身体能力の基礎を養い体力を強化、自信を持った行動ができる子どもを育てる。
- ②体力作りを通し「何事にも意欲的に取り組む態度」を育てる。
- ③健全な「こころ」の発達、成長へ繋げる。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(※「個人記録表」「研究活動テスト」に基づいた評価とする。)

	評価項目	評価	取り組み状況
1	毎週の体操教室で基礎運動を学び、習得する。 鉄棒・縄運動の個人測定を実施	B	個々の発達に見合った指導で無理なく繰り返し行うことで身につけられるようになった。 「個人記録表」を3月に保護者へ配布した。
2	園内自主研究の取り組み	A	チャレンジカードを用いて、様々な運動に挑戦する。毎月、縄運動テストを実施し、学年の身体的発達段階に沿った階級で、評価していく。
3	園内研修(公開保育)	B	他クラス、他学年、また支援の必要な園児の様子、各担任の指導や関り方などを見学し、意見交換を行った。

(A…十分効果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	1・2本園の教育目標「素直で明るく <u>元気な子</u> 」を基盤に、日常的に身体を動かす「体力作り」に取り組んできた。 また、専門講師による体育指導と、園内自主研究「縄・鉄棒運動」に焦点を充て、意欲的に取り組めるような手立て(チャレンジカードや、ゲームなど)で無理なく進めていくことで、あまり身体を動かして遊ばない子や、縄跳びや鉄棒に苦手意識を持つ子などが、興味を示し、自ら行うようになった。 特に最長学年は、ルールのある集団遊び(鬼ごっこやサッカーなど)の経験を積むことにより、コミュニケーションを取り、折り合いをつけながら協調する社会性を身につけられるようになってきた。
B	3 全体で意見交換し、各々で質問して、考えなどを聞くなどして、受け持ちクラスで実際に行ってみる等自己のスキルアップに繋げていくことができた。

5. 今後取り組む課題(案)

課題	具体的な取り組み方法
環境	自然豊かな裏庭を、園児が身体を動かして遊びたくなるような環境づくりに取り組む。
地域連携	近隣の園・学校・大学・施設等の連携を充実化し、相互で学びあえる機会を作る。

6. 学校関係者評価委員会の評価(理事・評議員)

ほとんどの園児が、卒園するまでに逆上がりができるようになること、縄跳びは交差飛びができること、広い園庭でのびのびと遊ぶことによる基礎体力作りは「大変良い」評価ができると思います。